

Redori
camera



ぐるり庄原 カメラ レポート



一人ひとりができること 庄原市赤十字奉仕団が結成

7月7日(木)、ふれあいセンターで「庄原市赤十字奉仕団」の結成式が行われ、団員や関係者などおおよそ70人が出席しました。この奉仕団は、赤十字の理念で



ボランティア活動などについて話された脇谷さん

ある人道・博愛の精神のもと、災害時のボランティア活動をはじめとした各種奉仕事業を行うもので、市内の男女約500人が所属。結成式では、委員長の寺岡隆行さん(宮内町)から、「赤十字の理念を胸に、できることを団結・協力してやっていきたい」とあいさつがありました。

また、併せて開かれた講演会では、日本赤十字社広島県支部の脇谷孔一さんから、災害ボランティアへの取り組み方や地震の体験談などが話され、会場の参加者は真剣に聞き入っていました。



奉仕団の団旗を受け取る寺岡委員長(写真右)



浴衣で楽しむ七夕祭り 紅梅通り七夕まつり



紅梅通りには浴衣姿の人がたくさん

7月7日(木)から9日(土)までの3日間、中本町の紅梅通りで「紅梅通り七夕まつり」が開催され、のべ1,000人も多くの

人が訪れました。にぎわいづくりの活動をしているワークショップのメンバーを中心に開催されたこの七夕祭りは、今年で2回目。今回も、昔の町並みの風情を残す紅梅通りが笹飾りで飾り付けられ、さらには手づくりの竹の灯籠が幻想的に照らし出し、浴衣姿の多くの人が訪れました。また9日には、金魚すくいやヨーヨー釣りなどの夜店、県立広島大学の学生によるコンサートや格致高校生徒によるFM放送局、さらには協賛店のサービスなど、訪れた人は盛りだくさんのイベントを楽しんでいました。



金魚はたくさんすくえたかな



3年間ありがとう!

英語指導助手のキムさんが帰国

英語指導助手として3年間指導にあたられたニュージーランド出身のキム・ポイドさんが帰国されました。

キムさんは、保育所、小・中学校、高等学校で子どもたちに英語を教え、英語が話せる高野っ子の育成に尽力されました。また、明るく気さくな性格から多くの高野町民とふれあい、英会話教室、茶道、雪合戦などでも活躍。特に、ふるさとCM大賞では2年連続して出演し、高野中学校での最後の授業の後、生徒たちと記念の一枚



高野中学校での最後の授業の後、生徒たちと記念の一枚

流暢な高野弁を使った演技で、大賞受賞の原動力となりました。7月は連日お別れ会が開催され、「親切にしてくださった高野町の皆さんのおかげで、とても楽しく素敵に3年間となりました。美しい高野町と皆さんの温かい心を決して忘れません。本当にありがとうございました。一旦帰国しますが、秋から広島市内で英語指導を続けるので、また遊びに来ます」と別れのあいさつをされました。



地元の米でちまきづくりに挑戦

ちまきづくり体験学習会

比和町越原には、七十二候のひとつ半夏生にあわせ、半夏までに無事田植えや農作物の植え付けができたことに感謝して「ちまき」を作る風習があります。



参加者全員で味わいました

7月2日(土)には、ふれあいの里越原で、「越原みこと会」の皆さんが「ちまきづくり体験学習会」を開催されました。市内外から集まった40人余りの参加者は、慣れない「ちまき」作りに悪戦苦闘。石臼で挽いた米粉の団子を取れたてのクマ笹で包み、ヒモのかわりのユガラでしばり、蒸しあげました。手づくりのちまきを口にしたら参加者からは、「越原でとれた米に、ほんのりと笹の香りがしておいしい」と驚きの声が聞かれました。

越原みこと会は、2カ月に1回程度、中国山地やまなみ大学の講座を開催されるほか、森脇地域自治振興区内でも活動されています。



慣れない作業に悪戦苦闘



完成前の最後の見学会

灰塚ダム

総領地域、三次市吉舎町、三良坂町にまたがって建設中の灰塚ダムで、7月16日(土)・17日(日)の2日間、ダム本体の見学会が開催されました。

7月末からは試験湛水が行われており、今回が最後となったダムの見学会には、関係者ら280人が参加。説明員の案内で集落跡などを訪れ、「もう昔の家の場所がわからんようなね」と変わりゆく景色に時の経過を感じ、川遊びをした当時の記憶を振り返り、思い出を語り合う姿も見られました。

三次・庄原圏域の水がめとなる灰塚ダムは、平成18年度の完成に向けて、最後の工事が進められています。



ダムについて説明を受けながら見学する参加者



まちづくりの「大学生」

まちづくり大学が開校

西城町内の50歳以上の方を対象に、まちづくりについて意見を交わしたり、さまざまな教養を身につけたりすることで生きがいづくりをしていく「まちづくり大学わくわくクラブ」は9年目を迎えますが、今年度から公民館主催事業として新たに開校しました。

本年度の受講生は103人で、中には第1期から連続で9回の受講となる方もおられ、皆さんの学習意欲の高さが伺えます。

講座の内容は、健康や生活安全などの講座や、体を動かしての健康体操やレクリエーションなどで、4回の講座を計画しており、すべて受講した後に卒業となります。

7月15日(金)の第1回講座では、前西城町教育委員会教育長の古川由紀さんによる、講座「手風琴(アコーディオン)人生」と、グランドゴルフを行い、参加した受講生の皆さんは有意義な時間を過ごしました。



古川さんの演奏に聞き入る受講生の皆さん



防火意識を育てよう

保育所で防火七夕会



消防署の署員から防火についての話を聞く子どもたち

7月5日(火)から7日(木)までの3日間、東城町内の各保育所で「防火七夕会」が行われました。この「防火七夕会」は、子どもたちの防火意識を育てる目的で毎年開催されており、7月7日の七夕の日には、東城消防署署員が東城保育所を訪れました。

子どもたちは、「火遊びはしません」「友達を大切にします」など防火の誓いを合唱し、消防署員のバルーンクラフト・保育所の先生と署員による七夕の劇を見た後、さまざまな願い事を書いた短冊を笹の葉に結びつけ、保育所に飾り付けました。

この季節、花火などで火を使う機会が多くなります。火の管理や後始末をきちんとするように心がけ、楽しい夏を送りましょう。



マスコットのとんびくんと一緒に記念撮影



さあ料理をはじめよう

男の料理教室を開催

口和町の保健センターでは、6月に4回シリーズで、地域にすむ男性を対象とした「男の料理教室」が開催されました。



出来上がった料理をお皿に盛り付け

参加されたのは17人で、「2人暮らしでいつも料理は頼りきりだから」「腕を磨いて店を開きたい」などの意気込みを話されるなど、気合は十分。第1回のメニューである「鯖のみそ煮」から、第4回の「鯉のたたき」までの計4回、包丁さばきや味つけ、煮炊きなどの調理に挑戦しました。最初は慣れない作業に時間がかかる場面もありましたが、この教室を通して、包丁さばきなども上達され、中には、「自宅に帰って復習しました」との声も聞かれました。

当初は6月限定の教室でしたが、参加者の要望により、現在も月1回の開催を継続しています。



自分でつくった料理のお味は?